

# 春風秋霜

1月号

平成31年1月9日  
島田市教育委員会だより  
教育長 濱田和彦

春風をもって人に接し、秋霜をもって自らを慎む 佐藤一斎

明けましておめでとうございます。今年は穏やかなお正月でしたが、この穏やかさが1年間続くことを願っています。本年もよろしく願いいたします。

## 1 税に関する作品表彰式から

11月23日(金)に税に関する作品表彰式が行われました。11月16日に一日税務署長を務めた六合中学校2年の河守唯全君は、作文部門で最高賞である東海税務連絡協議会長賞を受賞しました。彼の作文は、子供医療費助成や市長から空手全国大会出場報奨金をいただいた体験を基に、税に支えられている感謝の気持ちを表しています。税について詳しく学んでいない2年生が受賞したことにも感心させられました。

牧之原市立榛原中学校3年の桜井俊介君の作文は、税務課に勤める父親の「仕事が楽しい」という発言に、税の徴収は市民に嫌われるかもしれないのに、どうして楽しいのか不思議だと思い、父親と話したり、税について調べたりしています。父親の仕事は、市民が納税に関して困ったり、不満に感じたりすることがないようにする大切な仕事だと理解を深めます。

私は、桜井君の作文を読み、作文内容以上に父子の関係に感動しました。父親は自分の仕事に誇りを持ち、子供はそんな父親を尊敬しているからです。一方、最近の日本の社会はどうでしょうか。日本の一流企業における偽装事件や、行政や政治家の度重なる不祥事を、子供たちがどのように捉えるのか心配になります。大人は子供に生き方を示す存在でなくてはならないと思います。問題になっている方々は、子供に自分の行いをどのように説明するのでしょうか。

大人は、子供に自信を持って話すことのできないことをやるべきではありません。日本人が昔から大切にしてきた恥の文化を、もう一度考え直さなくてはならないと思います。少なくとも教員は、自分の子供や教え子に恥ずかしくない仕事や生活をしたいものです。

## 2 上海日本人学校から

金谷中学校の内藤康介教諭は、現在、上海日本人学校浦東校に勤務しています。内藤教諭は、社会科の地方自治の学習に島田市を取り上げ、その学習成果を財政の安定化や人口問題など10の提案にまとめ、島田市長に送ってくれました。

附属島田中学校でも、市職員を講師として活用すると共に、学習の成果を提言にまとめ、島田市に提案しています。学習の成果を市に提案するというのは、学習を教室内で完結することなく、生活に結びつけたり、行動に移したりすることになり、生徒にとってやりがいや楽しさに繋がるのだと思います。

内藤教諭のメールには、島田市に興味を持つ生徒が増え、「いつか島田市に行ってみたい。」という生徒も現れたと書かれていました。島田市に関係ない生徒まで島田市に興味を抱くなら、島田市の学校が同様な実践をすれば、効果は更に大きいのではないのでしょうか。島田市を知り、島田市を良くしたいと考える子供を育てることは、「地育」そのものだと思います。

## 3 学校訪問から

教育委員が、12月に市内3校の学校を訪問しました。六合中学校では、タブレットを使った英語の授業を参観しました。参観後の説明では、必要なことをインターネットで調べたり、

発音の確認をしたりと活用されているとのことでした。何よりもうれしいことは、先生方のタブレット使用希望が重なり、使いたい時に使えないほど活用されていると聞いたことです。

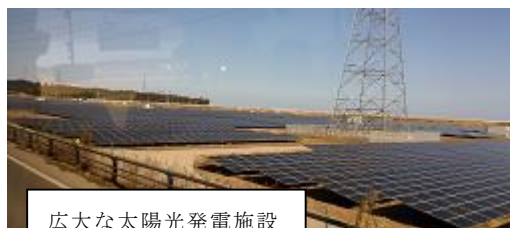
以前、市の財政課とパソコン更新の協議を行った時、ある小学校のパソコン利用率が低いと指摘され、予算がつかなかったことがあります。ICT 機器は活用次第で大きな可能性を秘めていることは事実です。また、これからの社会を生きていく子供たちにとって、機器の活用は必要な資質です。ICT 環境は十分とは言えませんが、あるものを十分に活用することが求められます。

#### 4 南相馬市馬追の里健康マラソンに参加して

12月2日（日）に行われた上記の大会に市内の小中学生8人と共に参加しました。前日には交流会が行われ、全国から集まった子供たちと名刺交換をしたり、元オリンピック選手からのランニング指導を受けたりしました。大会では、島田市の参加者で入賞を果たしたのは1人でしたが、全員が自己記録更新と頑張りを見せました。



大会後には、津波の被災現場や防災センターの見学を行いました。南相馬市の危機管理課の職員が大変丁寧な説明をしてくれたので、被害の深刻さと復興の現状を知ることができました。生々しい傷跡はほぼ見られないものの、除染用の黒いビニル袋はまだたくさん見られました。



私は、今回で4回目の南相馬市訪問になりますが、今回の訪問で一番印象に残ったことは、農地だった所がメガソーラー施設になっていたことです。海岸近くには、広大な土地にソーラーパネルが設置され、既に

南相馬市全域(約2万4千世帯以上)の発電能力を有するまでになっているとのことでした。将来的には7箇所の大型発電施設ができ、約7万世帯の電力を太陽光で賄う規模になるそうです。また、ロボットのテスト場(50ha)も建設中で、新しい産業が生まれる一方で、農業の担い手の減少や住居を手放す人の増加という現実も目にしました。

## 肘かけ椅子

牧野 高彦 教育委員

### 「新しい仲間」

前回の東京オリンピックの年、1964年の私は金谷小学校3年生。金谷町菊川の小学校が統合され、新しい仲間が金谷小学校にやってきた。昼休みの時間に、当時得意だったドッジボールで歓迎してやろう(ぎゃふんと言わせてやろう)と、彼らを相手に木造平屋の校舎の前に足で線を書き、始めた。快勝の途中、彼らの提案でボールが2個になった。私たちは、2個のボールを使ったドッジボールは初めてだったので、戸惑った。新しい仲間たちはいつもやっていたのだろう。上手に2個のボールを操り、あっという間に逆転された。私は思わぬ完敗に悔しさが午後の学習まで残ったのを覚えている。

数日後、その新しい仲間が菊川や神谷城では貝の化石が出ると教えてくれた。図鑑でしか見たことのない化石の実物に、後日案内された私は感動した。更に、その子供たちの自慢げな顔、郷土愛に自分たちにはないものを感じた。

自分の小学校にも自慢できるものがあるはずだ。探してみたくなった。最初のきっかけが新しい仲間とのこんな出会いにあった。